

- 下記の手順に従って、使用するパソコン(サーバ/クライアント)の設定を済ませて下さい。
 - 設定後は出来るだけ使用時と同じ状況で Pro/E が問題なく起動するか、事前に確認下さい。
 - 全てのパソコンの電源を投入 → Pro/E を起動 → データサーバに同時アクセス → 排他処理の確認を行う。

詳細設定は次ページ以降を参照

1. データサーバのフォルダ構成

- ダウンロードした setup_proe_yyyymmdd.zip を解凍して作成される setup フォルダに必要な環境設定ファイル一式が入っています。
- 作業者ごとにログインアカウント(例 pro01、pro02、pro03、...)を作成し、データサーバのフォルダごとにアクセス権を設定して下さい。

2. ローカルのフォルダ構成

- 全員のローカルのパソコンに c:\temp 又は d:\temp フォルダを作成し、アクセス権を与えておいて下さい。

3. 環境設定ファイル

- 図面枠ファイル(市販版・学生版共通 dwg_a1~a4v_17.frm)は、Pro/E 17 以降のバージョンで使用できます。
- ビュー配置済みのテンプレート図面(市販版 dwg_a1~a4v_view_2001.drw / 学生版 dwg_a1~a4v_view_2001_su.drw)は、Pro/E 2001 以降のバージョンで使用できます。

4. 環境設定ファイル config.pro の保存場所(参考として目を通しておいて下さい)

5. 環境設定ファイル config_xxxx.pro の編集

- setup_proe_yyyymmdd.zip を解凍後、setup/config/ 以下にある config_xxxx.pro をメモ帳で開き下さい。必要であれば、-- Path and Directory -- 以下の内容をパソコンの環境に合わせて書き換えます。
- また、データサーバに作成した作業用フォルダのサーチパスの設定も追加しておいて下さい。

6. Pro/E 環境設定コピー&起動用バッチファイルの編集

- setup/bat フォルダ内にある「Pro/E環境設定コピー&起動用」のバッチファイル proexxxx_setup.bat の内容を編集します。

7. Pro/E 起動用アイコンの設定

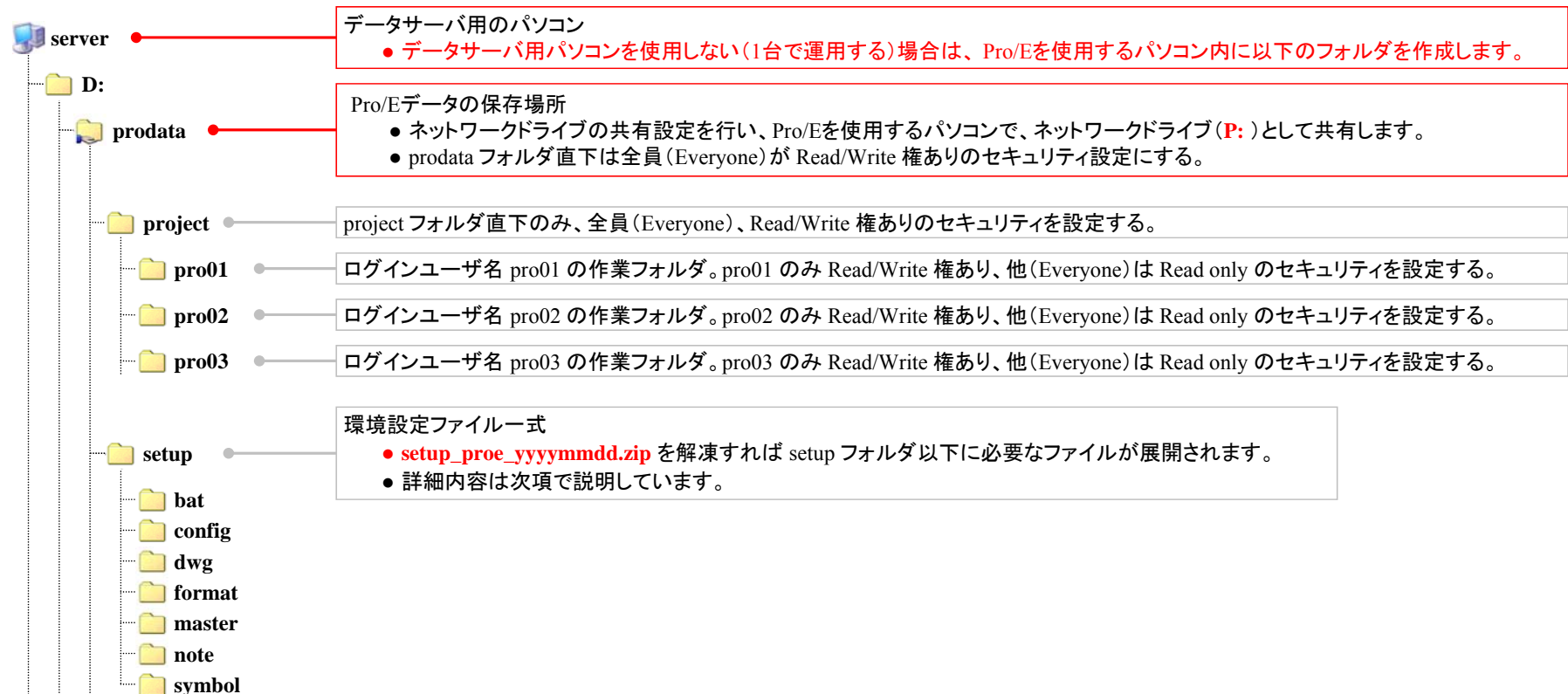
- Pro/E 起動用アイコンを作成して、プロパティを開き、リンク先と作業フォルダを指定します。

■ その他

- このファイル自体は、setup/setup_proe_yyyymmdd.ppt 又は setup/setup_proe_yyyymmdd.pdf を参照下さい。
- Pro/E の簡易マニュアルは setup/command_lists_proe_xxxx.pdf を参照下さい。

1. データサーバのフォルダ構成

- データサーバとして使用するパソコンに、下記の作業フォルダを作成します。
 - ◆ データサーバにはサーバソフトがインストールされたパソコンを用いて下さい。
 - 専用のデータサーバが用意できないときは、作業用PCのうち1台を簡易データサーバとします。
 - 簡易データサーバを使用する場合、同時接続できるパソコンは4台程度となります。
 - ◆ フォルダの名前は任意ですが、ここでは pro01、pro02、pro03、... とします。
- 作業者ごとにログインアカウントを作成して下さい。
 - ◆ ログインアカウントは任意ですが、ここでは pro01、pro02、pro03、... とします。
 - ◆ ログインアカウントごとに、アクセス権を設定して下さい。

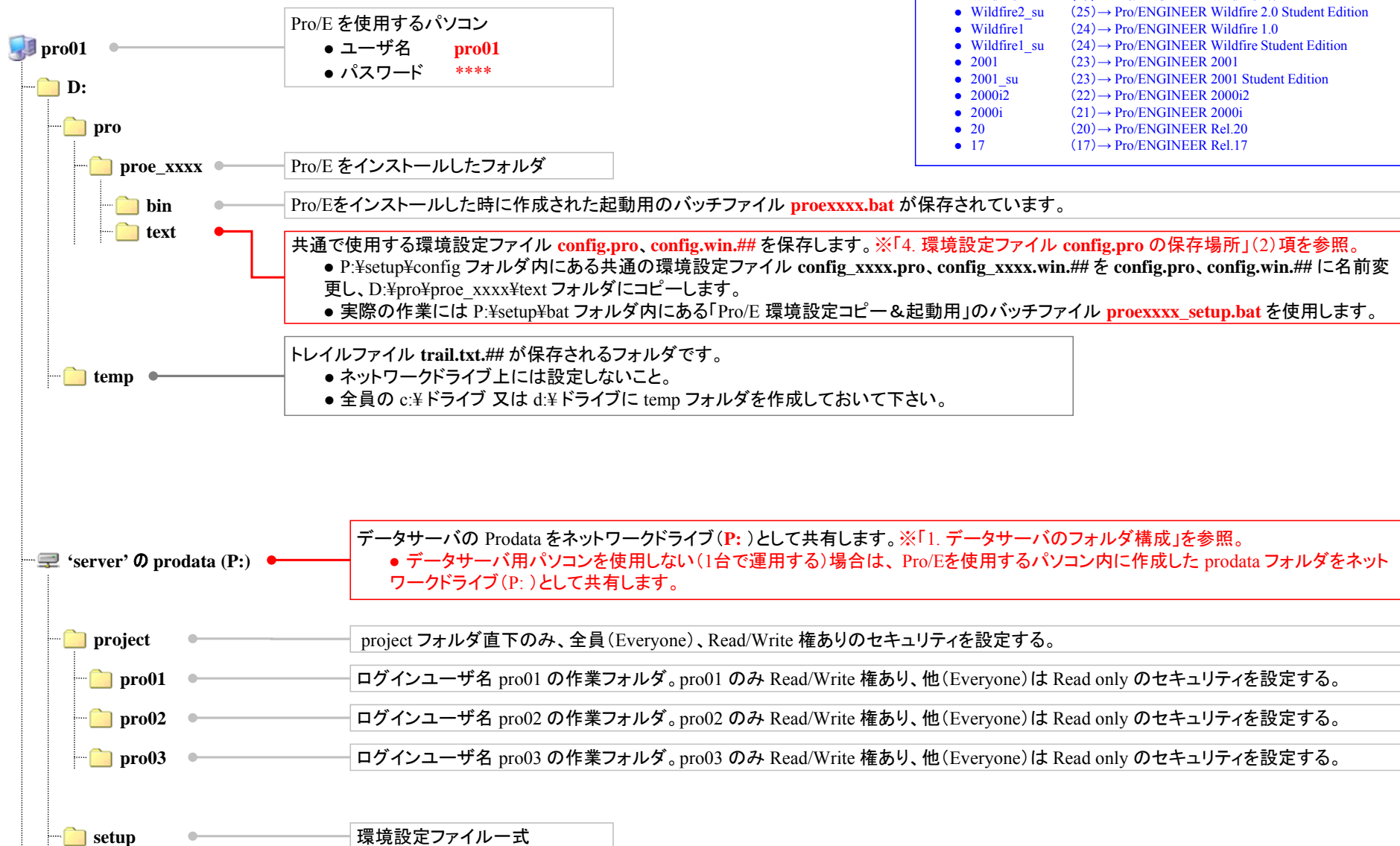


2. ローカルのフォルダ構成

- Pro/E を使用するパソコンのフォルダ構成例を下図に示します。

xxxx の部分は Pro/E の各バージョンに対応します。

Wildfire5	(31) → Pro/ENGINEER Wildfire 5.0
Wildfire5_su	(31) → Pro/ENGINEER Wildfire 5.0 Student Edition
Wildfire4	(29) → Pro/ENGINEER Wildfire 4.0
Wildfire4_su	(29) → Pro/ENGINEER Wildfire 4.0 Student Edition
Wildfire3	(27) → Pro/ENGINEER Wildfire 3.0
Wildfire3_su	(27) → Pro/ENGINEER Wildfire 3.0 Student Edition
Wildfire2	(25) → Pro/ENGINEER Wildfire 2.0
Wildfire2_su	(25) → Pro/ENGINEER Wildfire 2.0 Student Edition
Wildfire1	(24) → Pro/ENGINEER Wildfire 1.0
Wildfire1_su	(24) → Pro/ENGINEER Wildfire Student Edition
2001	(23) → Pro/ENGINEER 2001
2001_su	(23) → Pro/ENGINEER 2001 Student Edition
2000i2	(22) → Pro/ENGINEER 2000i2
2000i	(21) → Pro/ENGINEER 2000i
20	(20) → Pro/ENGINEER Rel.20
17	(17) → Pro/ENGINEER Rel.17



3. 環境設定ファイル

- setup_proe_yyyymmdd.zip を解凍すれば setup フォルダ以下に必要なファイルが展開されます。
 - ◆ 環境設定ファイルは下記のURLからダウンロードすることが出来ます。

http://www.page.sannet.ne.jp/gah01300/proe/manual/knowhow/config_pro.html

'server' の prodata (P:)

- setup**
 - syscol_xxxx.scl システムカラー
 - color.map カラーマップ(パレット)
 - appearance.dmt Pro/E Wildfire 以降の外観カラーパレット
 - table.pnt プロッタのペンテーブル
 - tree_xxxx.cfg モデルツリー設定
- bat**

「Pro/E 環境設定コピー&起動用」起動用バッチファイル **proexxxx_setup.bat** の保存場所です。

 - P:¥setup¥config フォルダ内にある共通の環境設定ファイル **config_xxxx.pro**、**config_xxxx.win.##** を **config.pro**、**config.win.##** に名前変更し、D:¥Pro¥ProE_xxxx¥text フォルダにコピーしたあと、Pro/E を起動するバッチファイルです。
- config**

共通環境設定ファイル **config_xxxx.pro**、**config_xxxx.win.##** の保存場所
- dwg**

図面設定ファイル **config.dtl** があります。
- format**

図面枠ファイル(全バージョン共通)

 - dwg_a1_17.frm A1横
 - dwg_a2_17.frm A2横
 - dwg_a3_17.frm A3横
 - dwg_a4_17.frm A4横
 - dwg_a4v_17.frm A4縦
- master**

設計用のテンプレートファイル (マスターファイル)

 - master_xxxx.prt 部品
 - master_xxxx.asm アセンブリ

ビュー配置済みのテンプレート図面 ※Pro/E xxxx 以降のバージョンに対応

 - dwg_a1_view_xxxx.drw A1横
 - dwg_a2_view_xxxx.drw A2横
 - dwg_a3_view_xxxx.drw A3横
 - dwg_a4_view_xxxx.drw A4横
 - dwg_a4v_view_xxxx.drw A4縦
- note**

注記ファイル #####.txt
- symbol**

シンボルファイル #####.sym
- project**

各ファイルの最後に付加されている数字だけの拡張子(##)はファイルのバージョンを示します。エクスプローラで拡張子を全て表示するように設定すると見ることができます。Pro/Eのファイルは保存するたびにバージョン番号が更新された新しいファイルが作成されるということです。(下記に例を示す)

```

sample.prt.1 1回目の保存
sample.prt.2 2回目の保存
sample.prt.3 3回目の保存(新しいファイル)
    
```

4. 環境設定ファイル config.pro の保存場所

- 保存場所とファイル名によって、優先順位が決まります。

優先順位	設定ファイル名と保存場所の概要
1	<p>D:\pro\proe_xxxx\text\config.sup</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Pro/E の起動時には必ず自動的に読み込まれる。 ● config.sup の設定が全てに優先される。 ● グラフィック等、ハードに依存した内容を記載する。
2	<p>D:\pro\proe_xxxx\text\config.pro</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Pro/E の起動時には必ず自動的に読み込まれる。 ● 同じ設定項目が存在した場合、後から読み込まれた config.pro の設定項目が優先される。 ● 全員が共通で使用する環境を設定しておく。 ● P:\setup\config フォルダ内にある共通の環境設定ファイル config_xxxx.pro、config_xxxx.win.## を config.pro、config.win.## に名前を変更し、D:\pro\proe_xxxx\text フォルダにコピーします。 ● 実際の作業には P:\setup\bat フォルダ内にある「Pro/E 環境設定コピー&起動用」のバッチファイル proxxxx_setup.bat を使用します。
3	<p>P:\project\config.pro P:\project\pro01\config.pro</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Pro/Eを起動するカレントの作業フォルダに置くと、自動的に読み込まれる。 ● プロジェクト毎に必要なサーチパス、特殊な項目などを設定する。 ● 不要なサーチパスを設定するとファイルの呼び出し時間が長くなるので注意して下さい。
4	<p>P:\project\pro01\config_user.pro</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 一時的に変更したい設定、個人的な設定などを記述する。ファイル名は「config_任意の名前.pro」とする ● Pro/Eの起動時には読み込まれないので、必要な時に手動で読み込む。 ● 任意の場所にある環境設定ファイルを読み込むこともできる。

5. 環境設定ファイル config_XXXX.pro の編集

- メモ帳などで、-- Path and Directory -- 以下の内容をパソコン環境に合わせて書き換えます。
- サーチパス(ファイルの検索範囲)に作業フォルダの場所を追加します。
 - ◆ 下記は config_wildfire2_su.pro の例です。

```
! -----  
! Standard config.pro for Pro/ENGINEER Wildfire 2.0 Student Edition  
! Ryuuna Design and Engineering  
! Last Updated: 21 Dec 2008 by S.Nishikawa  
! -----  
!  
! -- Path and Directory --  
!  
drawing_setup_file $setup_dir%dwg%config.dtl  
format_setup_file $setup_dir%dwg%config.dtl  
mdl_tree_cfg_file $setup_dir%tree_wildfire2.cfg  
pen_table_file $setup_dir%table.pnt  
plot_file_dir C:%temp  
plot_file_dir D:%temp  
plotter_command WINDOWS_PRINT_MANAGER  
pro_colormap_path $setup_dir  
pro_dtl_setup_dir $setup_dir%dwg  
pro_editor_command notepad.exe  
pro_format_dir $setup_dir%format  
pro_note_dir $setup_dir%note  
pro_plot_config_dir $setup_dir  
pro_symbol_dir $setup_dir%symbol  
relation_file_editor PROTAB  
!  
search_path $setup_dir%dwg  
search_path $setup_dir%format  
search_path $setup_dir%master  
search_path $setup_dir%symbol  
!  
search_path P:%project%pro01  
search_path P:%project%pro02  
search_path P:%project%pro03  
!  
start_model_dir $setup_dir%master  
system_colors_file $setup_dir %syscol_wildfire2.scl  
template_solidpart $setup_dir%master%master_wildfire2.prt  
template_designasm $setup_dir%master%master_wildfire2.asm  
template_drawing $setup_dir%master%dwg_a3_view_2001.drw  
trail_dir C:%temp  
trail_dir D:%temp  
!  
! -- General Settings --  
!
```

この部分は各種ファイルの保存場所などを指定している部分なので、自分のパソコン環境に合わせて書き換えて下さい。
※ここでは setup_dir を P:%setup とした例を示します。

ローカルドライブ上(C:ドライブ、もしくはD:ドライブ)に temp フォルダを作成して下さい。

!マークはコメント行で、記載内容は無視されます。

サーチパスに各自の作業フォルダを追加します。

ローカルドライブ上(C:ドライブ、もしくはD:ドライブ)に temp フォルダを作成して下さい。

6. Pro/E 環境設定コピー&起動用バッチファイルの編集

- P:¥setup¥bat¥proexxxx_setup.bat の内容を編集します。

```
set LANG=japanese
```

```
set setup_dir=P:¥setup
```

P:¥setup は環境設定ファイル一式を保存したフォルダを指定します。

```
set inst_dir=D:¥pro¥proe_XXXX
```

D:¥pro¥proe_XXXX は Pro/E をインストールしたフォルダを指定します。

```
copy "%setup_dir%¥config¥config.sup" "%inst_dir%¥text¥config.sup"
```

```
copy "%setup_dir%¥config¥config_wildfire2.pro" "%inst_dir%¥text¥config.pro"
```

```
del "%inst_dir%¥text¥config.win.*"
```

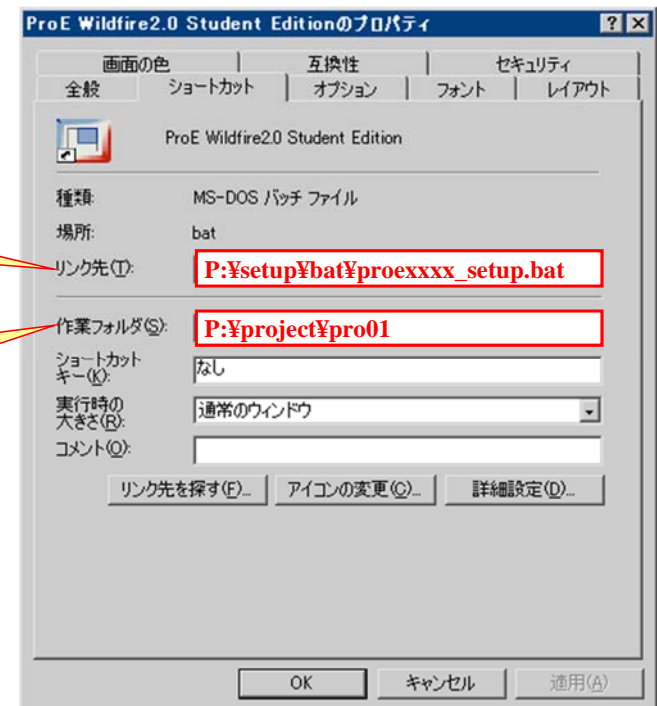
```
copy "%setup_dir%¥config¥config_wildfire2.win.*" "%inst_dir%¥text¥config.win.*"
```

```
"%inst_dir%¥bin¥proexxxx.bat"
```

Pro/E をインストールした時に作成された起動用のバッチファイル proexxxx.bat を指定します。

7. Pro/E 起動用アイコンの設定

- Pro/E 起動用アイコンのプロパティを開いて、リンク先と作業フォルダを編集します。
 - ◆ 作業用のパソコンごとに設定します。



(1) で作成した「Pro/E 環境設定コピー&起動用」のバッチファイル proexxxx_setup.bat を指定します。

各自の作業ホルダで Pro/E を起動します。

- パソコンごとに作業ホルダ (例: pro01) を指定して下さい。